

フラッシュ

平成9年度県民経済計算早期推計

～実質県内総生産 5年ぶりのマイナス成長～

(1) 県内総生産（名目）	11兆0,475億円	対前年度比	1.0%
県内総生産（実質）	10兆6,534億円	対前年度比	△0.2%
(2) 県民所得	9兆2,941億円	対前年度比	1.5%
(3) 県民総支出（名目）	11兆7,150億円	対前年度比	1.1%
県民総支出（実質）	11兆2,970億円	対前年度比	△0.1%
(4) 1人当たりの県民所得	3,115千円	対前年度比	1.1%

1 茨城県の平成9年度県内総生産は11兆475億円となり、対前年度比（経済成長率）は1.0%増と前年度の2.5%増から伸びが鈍化したものの5年連続のプラス成長となった。物価上昇等を考慮した実質値（平成2年価格）では、10兆6,534億円で、対前年度比（実質経済成長率）が△0.2%減と5年ぶりのマイナスとなった。

名目がプラス成長となった大きな要因は、建設業の総生産が大幅にマイナスとなった（対前年度比△11.7%）ものの、製造業が8年度に引き続き増加（対前年度比2.6%）し、第3次産業も同様に増加した（対前年度比2.0%）ためである。

2 県民所得は9兆2,941億円、対前年度比1.5%増で4年連続の増加となった。構成比が最大である雇用者所

得が対前年度比2.4%と増加、財産所得が△1.8%と6年連続の減少、企業所得は0.2%増と2年連続の増加となった。

3 県民総支出は11兆7,150億円で、対前年度比1.1%増となった。民間最終消費支出が対前年度比0.8%と増加、一般政府最終消費支出も対前年度比1.5%増、財貨・サービスの移出が同4.5%と増加したが、民間総固定資本形成が同△8.5%、公的総固定資本形成が同△5.2%と大きく減少した。

4 1人当たりの県民所得は3,115千円で、対前年度比1.1%と4年連続の増加となった。これを平成9年度の1人当たり国民所得（3,095千円）と比べると、額で20千円県が高くなり、2年ぶりに国を上回るようになった。
(県統計課)

経済成長率の推移

単位：%

		4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度
県内総生産	名目	△0.3	0.9	4.7	0.1	2.5	1.0
	実質	△1.5	0.2	5.8	1.8	2.8	△0.2
国内総生産	名目	1.9	1.0	0.4	2.3	2.9	0.2
	実質	0.4	0.5	0.6	3.0	4.4	△0.4

平成10年度学校保健統計調査結果（速報）

～本県の児童・生徒の体型～ 男女とも現代を代表する「足長スタイル」傾向

親の世代(30年前)より1歳ほど成長早まる

本県の児童・生徒の体格は、男子・女子ともに身長、座高は前年と同様の発育状態と言えるが、男子の体重はここ2年ほど過去の伸びに比べ鈍化している。一方女子の体重は前回ほとんどの年齢で減少したが、今回は増加に転じている。

また、本県の児童・生徒の体型を全国平均値と比較してみると、男子・女子ともに身長、体重は全国平均を概ね上回っている。特に、体重の格差については男子では12歳を除いて0.2kg～0.9kg、女子では9歳を除いて0.3kg～1.0kg程各年齢でそれぞれ全国平均を上回っている。

しかし座高は全体的にここ数年全国平均を下回っている。

特に、男子では15歳で△0.5cm、17歳で△0.4cm、女子では15歳で△0.3cm程全国平均を下回っている。

このことから、本県の児童・生徒の体型は、男子・女子ともに若干太り気味ではあるが、現代を代表する「足長スタイル」傾向と言えそうである。

子供たちの親の世代である30年前（昭和43年度）と比較してみると、1歳ほど成長が早まっている。最も体格差のある年齢は、男子では13歳（中学2年生）で、身長が7.0cm、体重が8.6kg、座高が3.2cm、女子では11歳（小学6年生）で、身長が6.4cm、体重が5.9kg、座高が2.8cm大きくなっている。
(県統計課)